2023年（令和５年）
11月11日
（土曜日）

THE KENSETSU MIRAI TSUSIN
建設未来通信

茨城全県版
発行所：茨城県水戸市笠原町1523-3
桂ビル２階
TEL:029-291-8855 FAX:029-291-8854
https://www.kensetsumirai.co.jp
新聞購読料　月額 5,940 円（税込）
電子版購読料　月額 4,400 円（税込）

地域に貢献できる建設産業を目指す
㊐ 常磐建設株式会社
代表取締役 佐々木　孝夫
〒301－0824　茨城県龍ケ崎市 2957 番地
TEL 0297－62－2121
FAX 0297－64－2780

いばらきの公共事業
～歴史をたどり、後世に残す～
県土木部道路建設課編⑦

筑西幹線道路の整備について
渡邊 一夫 氏 × 永田 清一 氏
元県土木部長（当時・県土木部道路建設課）
元土木部技監兼筑西土木事務所所長（当時・技監兼筑西土木事務所長）

将来の４車線化見据え進行
県西地域の発展へ貢献

私は25歳の時から3年間、境土木事務所（現・境工事事務所）にお世話になりました。初めての現場です。道路改良舗装工事や橋梁工事を担当しましたが、分からないことは勇気を出して、先輩方に教えていただきました。また、現場代理人との打ち合わせは、すればするほど良い現場ができるんだと、しみじみ思いました。本当に、充実した3年間でした。

（弊社HPトピックスに掲載）

筑西幹線道路は北関東自動車道桜川筑西ICと古河地域を結ぶ、約44㎞の広域的な幹線道路として計画されました。県西地域の地域間交流の向上、さらに北関東自動車道と一体となっての県西地域（特に古河地域）と県央地域の移動時間短縮を目的として計画されたものです。私は道路建設課で、ずっとこの計画に関わっておりました。

まず、整備の基本方針が決められました。

①将来の4車線化を見据えて計画し、当面は暫定2車線で整備する。

②主要地方道筑西三和線をベースに、課題の鬼怒川渡架は老朽化している現・鬼怒川大橋の架け替え工事として整備し、整備中の関城バイパスを活用する。

③関城バイパスから東側の国道294号までは、当面筑西三和線の現道を活用するが、バイパスも検討する。

④国道294号から筑西つくば線までは、すでに筑西つくば線のバイパスとして位置付けしている県西総合事務所（現・筑西合同庁舎）南側のルートを活用し、小貝川・五行川の合流点近くに新橋をかけることで調査・調整する。（合流点での渡架は非常に難しいのですが、河川協議は概ね済んでおりました）

⑤筑西つくば線から国道50号までは、筑西市の市道計画と、すでに整備されている県西総合公園脇の市道を基本に調整する。

⑥筑西市道交差点から桜川筑西ICまでは、国道50号の現道利用とし、国に4車線化を働きかける。

⑦鬼怒川大橋から西側については、筑西三和線のバイパスを検討する。

⑧古河地域についてのルートのしぼりこみを早める。

以上の基本方針をもとに、各地域で諸々の調査・調整が進められ、まとまったところから整備が進められていきました。

鬼怒川大橋の架け替え工事ですが、基本方針のもと諸々の調査・設計と河川協議を進め、平成15年（2003年）、橋長624m、前後アプローチを含め1100mが事業化されました。2・5mの片側歩道を有し、全幅10・5mの暫定2車線道路としての整備です。平成23年（2011年）11月、無事開通となり、歩行者の安全と円滑な交通が確保されました。

小貝川新橋（筑西大橋）は、心配していた通り河川協議が相当難航したと聞いておりましたが、平成28年（2016年）には橋長204m、片側に3・5mの歩道を有する全幅12mの3径間連続PC箱桁の橋梁として完成し、筑西市の協力のもと進められた前後合わせて約3000mが開通しました。ご苦労された関係者の皆様には感謝、感謝です。

古河地域では、日野自動車の進出を契機に、名崎工業団地から新4号国道まで約6㎞が古河市道として整備され、供用されております。

国道50号は、桜川筑西IC側から4車線化工事が進められています。筑西幹線道路は、国、県、市町の連携のもと、着々と利便性を向上させているのです。

私の鬼怒川大橋との出会いは、昭和47年4月、県職員に採用になって初めて配属された下館土木事務所でのことです。

当時、現場への道中で鬼怒川大橋を渡るたび、先輩からよく聞いていた話を思い出します。今のように生コンクリートが無かった時代、この橋を架けた時の話でした。鉄筋を組む時の話や、セメント・砂利・砂・水などの材料を計量しながら、現場で練ってコンクリートを作り、打設して作った橋であることなどを聞きました。県職員に採用になってまだ一年足らずだった私は、いつか土木技術者としてこのように大きな現場に携わってみたいと、将来への夢と士気の高まりを感じていました。

昭和35年に架橋され、そののち半世紀近くの歳月が過ぎた頃のことです。橋梁には延命対策が施されてきましたが、老朽化が進み、幅員も狭く、自動車の円滑な通行にも支障をきたし、歩道も無く、道路・河川の構造基準にも合致しなくなったことから、平成15年より筑西幹線道路として着手されました。

その後、私が鬼怒川大橋と再会したのは平成20年、筑西土木事務所へ転勤になった時のことです。下部工事の橋脚もほぼ完成に近づいていた時でした。

当時、上部工の発注準備をしている最中、県企業局から突然の協議があり、工業用水の送水管を上部工へ添架させてほしいという旨の話があったことを覚えております。古河市の名崎工業団地へ、日野自動車工場の誘地が急遽決まり、工業用水が足りなくなるという理由からでした。上部工の設計図書が全てできあがっていた段階でしたが、設計荷重・構造の見直しが必要になりました。担当された方には大変ご苦労をかけたことを思い出します。

その上部工工事も、平成21年度に発注することができて、私が退職した後の平成23年11月に無事完成しました。

鬼怒川から西側の道路ルートについて私が関わったのは、ルートを決定する前々段階のことでした。

コントロールポイントとなる箇所の調査で、担当者と現地踏査に行ったことがあります。高圧送電線鉄塔が計画路線上にあること、連続した水田地帯であり多くの農業施設があること、道路をどう避けて影響なく通すかで担当者と悩んだことなどを覚えています。この部分も、暫定2車線で令和3年3月に開通しました。付近の道路を通るたびに、当時のことが懐かしく思い出されます。

また、小貝川に架かる筑西大橋に関わったのは、平成20年度に予備設計を行い、平成21年度に詳細設計を進める段階で河川管理者と協議をした時でした。

河川管理者からは、架橋位置が小貝川と五行川が合流する直下流であることから、川の流れが複雑に影響することが予想されるとの意見が出されました。橋脚は極力、河川に対し阻害の少ない構造にするとの協議結果となりました。

検討の結果、多少重厚な橋脚構造となりましたが、長スパン飛ばすことによって橋脚の数を少なくし、河川管理者の了解を得た記憶があります。

その後、筑西市をはじめ関係者の皆様のご協力のもと、平成28年3月に筑西大橋を含めた区間約3㎞が無事に供用開始となりました。

この筑西幹線道路は、厳しい財政状況でありながらも、私の退職後の現在では筑西土木事務所管内で約10㎞が供用開始できました。着実に整備が進んでおり、今後さらに整備が進むことで、県と県西地域の発展に一層貢献されることが期待されています。

この大きな事業の一端を担わせていただいたこと、大変光栄であり感謝しております。（島津就子）

いばらきの公共事業を紐解く

永田　清一（ながた　せいいち）
1949年11月15日生まれ。73歳。初入庁は72年で、下館土木事務所に配属となった。その後、河川課技佐兼課長補佐、河川課ダム・砂防室長などを経て、2010年に技監兼筑西土木事務所長で定年を迎えた。現在は当時の経験を生かし、中央技術㈱に勤務している。

楠原管工業に感謝状
統計調査で顕著な功績
県筑西土木／国交大臣表彰伝達式

▲筑西合同庁舎で表彰式を行った

県筑西土木事務所（大森智所長＝写真左から2人目）は7日、2023年度建設工事及び建築着工統計調査に係る国土交通大臣表彰の伝達式を開催。受賞者の㈱楠原管工業（筑西市、藤木章吉代表取締役＝写真右から2人目）に感謝状を贈呈した。

国交大臣が秀商へ感謝状
伝達式開催 正確な統計調査を評価
県土浦土木

▲植村代表取締役と大森所長が記念撮影

県土浦土木事務所（大森満所長＝写真右）6日、2023年度建設工事統計調査に係る国土交通大臣表彰の伝達式を開催。㈱秀商（つくば市、植村和徳代表取締役＝写真左）に感謝状が贈られた。

伝達式では、大森所長が「調査において直近3カ年で一度も回答期限を超過することなく、また回答内容が正確であることからその功績が認められ今回の受賞となった」とあいさつ。植村代表取締役に感謝状を手渡した。

受賞者あいさつで植村代表取締役は「このような表彰式を執り行っていただき深く感謝。皆さまのお役に立てるよう精進する所存。今後とも何卒よろしくお願いいたします」と謝意を述べた。

この表彰は、建設工事に関する基幹統計調査の実施に関し、その功績が顕著な団体または個人を表彰することにより、業務遂行の能率増進と従事者の士気高揚を図ることを目的としている。

8カ所で老朽管更新
年度内に実施設計策定
城里町

冒頭、大森所長が「本統計調査は建設業者の建設工事受注動向、公共機関等の受注工事の詳細を把握し、経済政策、建設行政の基礎資料となる基幹統計調査。今後も本調査へのご協力をお願い申し上げる」とあいさつ。藤木代表取締役に感謝状を手渡した。

その後、藤木代表取締役が「継続は力なり。表彰をいただいたことは誠にありがたく感謝申し上げる。引き続き努力させていただく」と謝辞を述べた。

城里町は、上阿野沢地内など8カ所で老朽管の更新を行う。本年度は㈱玄設計（水戸市）で実施設計をまとめる。履行期間は2024年3月25日までとしている。

更新箇所は、桂地区の上阿野沢（φ40L300m）、錫高野（φ50L640m・φ75L250m）、常北地区の増井（φ150L190m・橋梁添架φ150L36m、φ50L230m）下青山（φ100L310m）、上古内（φ50L420m、φ50L890m、φ150L200m）。

全規格で価格上昇
素材の国産材ヒノキなど
県林政課／8～9月木材市況

県林政課は、木材市況（2023年8月～9月末日現在）を公表した。前月比では素材の国産材スギ、ヒノキとも全ての規格で価格が上昇した。このうちヒノキの「中目材」（4・00m×16～28㎝）は前月比400円上昇し㎥あたり2万1400円、「柱材」（3・00m×16～28㎝）は同3500円上昇し㎥あたり2万円となった。

製材品の価格については、国産材スギ、ヒノキ、外材の全ての規格で横ばいだった。

木材市況は、素材（国産材）と製材品の価格は県内の市場平均価格がベース。素材（外材）は製材工場着の全国平均価格（農林水産統計）をもとにしている。

なお、今年8月分の本県の新築住宅着工数の動向については、着工が前月比88・5%の1196戸。W造は同98・3%の940戸だった。

全国では着工が前月比103・3%の7万399戸、W造が102・6%の4万1188戸となっている。

木材市況（2023年９月末）

製材品　（23年8月末現在　単位：円／㎥）

製材	樹種	規格（m×㎝×㎝）	級	区分	価格	動向
国産材	スギ	3.00×10.5×10.5	KD特	柱	60,000	→
		4.00×10.5×10.5	KD特	柱	75,000	→
		3.65×1.4×10.0	グリーン特	ヌキ	50,000	→
		3.65×3.6×4.5	グリーン特	タルキ	48,000	→
		4.00×9.0×9.0	グリーン特	母屋	40,000	→
	ヒノキ	3.00×12.0×12.0	KD特	柱	70,000	→
		4.00×12.0×12.0	KD特	土台	75,000	→
外材	米マツ集成材	4.00×12.0×24.0	KD特	梁・桁	80,000	→
	米ツガ	4.00×12.0×12.0	グリーン特	注入土台	100,000	→
	欧州アカマツ	4.00×4.0×3.0	内地挽KD	野縁	100,000	→
	レッドウッド集成梁	3.0～6.0×10.5×15.0～36.0	集成材	梁・桁	100,000	→

素材　（23年9月末現在　単位：円／㎥）

素材	樹種	規格（m×㎝）	区分	価格	動向
国産材	スギ	3.00×16～28	柱材	12,400	↗
		3.65×24～28	中目材	11,100	↗
		4.00×8～16	小径材	10,100	↗
	ヒノキ	3.00×16～28	柱材	20,000	↗
		4.00×16～28	中目材	21,400	↗
		4.00×8～14	小径材	18,900	↗

※価格：素材（国産材）と製材品は県内の市場平均価格
※動向：前月比（↗＝上昇、→＝横ばい、↘＝低下）

県道の法面保護
年内にも公告へ
県常総工事

県常総工事事務所は、県道136号高崎坂東線の法面保護工事を実施する。年内にも一般競争入札を公告したい考えで、工期は5カ月を見込む。施工延長等については現在検討中。

施工場所は常総市杉山地内。ミニストップ常総杉山店付近で、同路線と市道が交わる交差点の南側を対象とする。

周辺には岡田小学校があり、通学路としても利用されている。歩道側に草が伸びてしまう状態で、通学児童の安全を確保するため、防草対策として法面保護工事を実施する。